

## 7. 急性心筋梗塞と脂質検査項目の関連性について

有居千尋 三末高央 眞々田洋子 畠山郁夫  
(船橋市立医療センター)

【はじめに】厚生労働省による「2010年国民衛生の動向」によると、日本人の死因は第1位が悪性腫瘍、第2位が心疾患、第3位は脳血管疾患となっており、死因の約3割を動脈硬化性疾患が占めている。動脈硬化の発症と進展は様々な危険因子の重積によって引き起こされ、その中で脂質異常症は最も重要な因子として注目されている。今回我々は、急性心筋梗塞(以下AMI)発症者を対象に、各脂質検査項目と動脈硬化との関連性を調査した。

【対象と方法】対象は当センター救急外来に搬送されAMIと診断された48例(平均年齢 $67.1 \pm 10.9$ 歳、男性40例女性8例)とした。比較対照には健診受診者105例(平均年齢 $51.6 \pm 12.6$ 歳、男性73例女性32例)とし、その中で肝機能異常と高脂血症を除いた37例をコントロール(C)群とした。関連項目は日常的な脂質検査項目の他に心筋マーカーを加えた。

【結果】1)健診受診者群における諸因子と各脂質検査項目の関連性:年齢およびBMIは有意な相関関係は認めなかったが、性別においてはRem-Cで男性の方が高値を示した。2)C群とAMI群における各脂質検査項目の比較:TC、TG、LDL-CはAMI群が高値を示し、HDL-Cは低値を示した。3)心筋マーカーと各脂質検査項目との関連性:AMI群における心筋マーカーの陽性率はTnT60%、H-FABP64%であった。また各脂質検査項目との有意な相関関係は認めなかった。

【まとめ】AMI発症者データから動脈硬化症における各脂質検査項目の重要性が確認できた。脂質異常症は多くの疾患の重要な危険因子であり、脂質検査は臨床症状をとらえた正確なデータが求められ、その意義を理解する必要がある。今後さらに検討を追加して詳細を報告する。

連絡先 047-438-3321

## 6. 糖尿病透析患者のRLP-コレステロール測定の臨床的有用性について

西宮梨恵 淵上孝一 山田奈美恵 上野芳人(新都市医療研究会君津会 玄々堂君津病院 臨床検査科)

【目的】RLP-コレステロール(RLP-C)は、レムナントリポ蛋白を反映する一指標として最近注目されている。すでにわれわれは、糖尿病患者においてRLP-Cが増加していることを報告してきた。一方、慢性腎不全患者においても脂質代謝異常を呈することが知られており動脈硬化性疾患との密接な関係が指摘されている。今回は、糖尿病透析患者と非透析糖尿病患者を比較し、糖尿病透析患者におけるRLP-C測定の有用性について検討したので報告する。

【対象と方法】1.対象:糖尿病透析患者50例、非透析2型糖尿病患者30例。2.方法:血清脂質は、RLP-C、総コレステロール(TC)、LDLコレステロール(LDL-C)、HDLコレステロール(HDL-C)、中性脂肪(TG)を測定した。血糖コントロールの指標はグリコアルブミン(GA)とした。

【結果】疾患群の比較はすべてTG値が $150\text{mg/dl}$ 以下の群について行った。GAが20%未満を示した糖尿病透析患者では、非透析糖尿病患者に比べ、RLP-C値およびRLP-C/TG比が、高値傾向を示した。TC、LDL-C、HDL-C値は糖尿病透析患者で低値を示した。また、GAが20%以上を示した群においても、RLP-C値およびRLP-C/TG比が、高値傾向を示した。TC、LDL-C、HDL-C値においても低値を示した。糖尿病透析患者ではGAが20%未満の群に比べ20%以上の群でRLP-C/TG比がより高値を示した。

【まとめ】糖尿病透析患者では、非透析糖尿病患者に比べRLP-C値が高く血中でのレムナントリポ蛋白が増加している可能性が示唆された。透析患者では、虚血性心疾患の発症頻度が高いことが報告されており、特に糖尿病透析患者において血中RLP-Cが、動脈硬化疾患発症の一指標となることが期待される。今後、さらに症例を増やして検討していく予定である。 0439-52-2366